

# 中央卸売市場

## 魚類市場



中央卸売市場は、私たちの毎日の食生活に欠かすことのできない水産物・野菜・果物などの生鮮食品を卸売するための市場です。市場では、生鮮食品を迅速・効率的に分荷し、公正な売買取引を行う必要があるため、鹿児島市が開設・運営し、市民の食生活の安定を図っています。

### 【中央卸売市場の歴史】

鹿児島島の市場の歴史は古く、魚類市場は江戸時代初期（1615年）、島津家久によって許可された納屋市場（御用魚問屋）が始まりました。青果市場は、大正13年に名山堀（現在のみなと大通り公園付近）に鹿児島青物卸市場が、同14年に桜島棧橋に桜島青果卸市場が開設されました。

中央卸売市場としては、昭和10年11月、全国で7番目、九州では初の市場として、現在の住吉町に開設されました。

その後、取扱量の増大や施設の老朽化などの理由から、昭和42年4月、青果市場と分離して魚類市場が現在地（城南町）に、また青果市場も、昭和51年11月に現在地（東開町）に移転し、生鮮食品の流通拠点として、広く鹿児島市民の食生活を支えています。

昭和10年11月 鹿児島市洲崎町（現・住吉町）に「鹿児島市中央卸売市場」として開場





# 「食の都かごしま」の拠点！ 中央卸売市場



# 青果市場

平成25年7月撮影



※写真は「鹿児島市中央卸売市場開設五十周年記念誌」より転載

平成21年3月 鹿児島市中央卸売市場整備計画策定



移転後の青果市場 (昭和62年頃撮影)

昭和51年11月 青果市場が東開町に開場



完成当時の魚類市場 (昭和42年頃撮影)

昭和20年6月 空襲により焼失

昭和42年4月 魚類市場が城南町に開場



旧中央卸売市場 (昭和10年頃撮影)